

平成17年度 住宅・建築関連先導技術開発助成事業  
 成果報告に関する評価総括表

番号	技術開発テーマ	構成員	実施年度	技術開発経費 事業費:千円 (国費:千円)	成功点	残された課題	今後の展開への助言等
1	タイル業界における廃棄物削減及び製品履歴管理に関する技術開発	株式会社セラトン KYタイル株式会社	平成17年度	60,233 (30,000)	専門工事業者としての現実的なニーズに対して、専門工事業者のノウハウやIT技術を効果的に活用して、実用性の高いシステムを開発した点を評価する。	より多くの企業が当該システムに参加することにより、システムに組み込むタイル製品の拡大を図り、更なる利用を促進することが必要である。	当該システムの開発を通し、発注・調達に係る効率化、物流合理化に向けた継続的な取組みに期待する。
2	建築物解体時に生じる天井地下及び仕上げ材の再資源化技術の開発	株式会社竹中工務店 株式会社プラントシステム	平成17年度	9,400 (4,200)	古くから採用され、建築ストックとして量が多い岩綿と石膏ボードの二重貼りに関する建設混合廃棄物に対して、現場での分別を可能とした適用性の高いリサイクル技術を開発した点を評価する。	技術面では、風選別の精度の向上、機器類のコンパクト化及び移動容易性の向上が必要であり、普及面では、建材メーカーとの共同研究の実施など、再生材の利用拡大や受け入れ先の確保が必要である。	適用箇所を増やし、システムの稼働率を高める継続的な取組みに期待する。
3	既存杭の再利用可能性調査試験機器の開発	財団法人ベターリビング 株式会社東京ソイルリサーチ	平成17年度	45,000 (22,500)	技術開発の焦点を絞って、既存杭の健全性評価技術という新たな手法を、より現場に対応しやすい技術として開発した点を評価する。	打撃以外の検査方法の検討や機械の小型化などの技術的な課題への対応の他に、評価方法を確立し、当該試験機の適用範囲を明確にする必要がある。	適用事例を増やし、当該試験機の効果が実証されることを期待する。
4	木造住宅の耐震性向上接合金物に関する技術開発	京大大学生存圏研究所 教授 小松幸平 タカヤマ金属工業株式会社	平成17年度	31,500 (9,800)	剛性や強度など構造特性に関して期待以上の効果が得られただけでなく、施工性が良好なうえに、当該技術開発のポイントの一つである「楔」についても、十分な効果が得られている点を評価する。	当該接合金物の形状や寸法等の改良により、更なるコストダウンの実施や、プレカットソフトへの当該接合金物の仕様を組み込むなど、市場性の強化が必要である。	架構での性能確認等を実施することにより、住宅全体の構造物として性能を明確にすることを期待する。
5	せん断剛性、せん断耐力向上型接着系アンカーボルトに関する技術開発	株式会社大本組 サンコーテクノ株式会社	平成17年度	3,065 (1,532)	ディスクによるせん断力の向上という明快な開発意図を持ち、耐震補強工事の施工性の向上に資する技術を開発した点を評価する。	施工精度の向上とそれに対応した設計法の確立が必要である。	当該アンカーボルトが、金属の使用量が同量のアンカーボルトと比較して、十分に耐力が向上していることの確認、耐震補強プレースまでを含めたシステム全体での性能の確認、当該技術の普及のための施工マニュアル等の整備等に取り組まれることを期待する。
6	ガラス制振壁に関する技術開発	株式会社大林組 住友スリーエム株式会社	平成17年度	16,817 (8,400)	制震性と安全性を確認したうえで、意匠性や機能性（採光）に優れたガラスを使用して制震壁を開発し、試験的ではあるが、実際に住宅への適用も行っている点を評価する。	実用化に向けて、とりつけ部周辺のディテールの検討が必要である。	普及・促進の観点から、設計マニュアルの整備を期待する。